

4つの財務諸表からみた四日市市の財政（平成20年度決算ベース）

四日市市は、市民のみなさまに市の財政状況をより理解していただくために、市や土地開発公社、第三セクターなどの関係する団体をも含めた連結ベースでの財務諸表をつくりました。

貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は、年度末時点(平成20年度末)において、四日市市の持っている資産をどのような財源(負債と純資産)でまかなってきたのかを表しています。つまり、市民のみなさまに行政サービスを提供する能力(資産)を将来世代の負担(負債)と現在までの世代の負担(純資産)でどのようにつくりあげてきたかを表しています。表の左に資産を表示し、右側に負債と純資産を表示しております。
 資産に対し、純資産の割合が大きいほど安定した財政状況であると言えます。
 貸借対照表から四日市市の財政状況を見ますと、将来世代の負担である「負債」(つまり、借金など)に対して、これまでにつくりあげた「資産」(つまり、財産)が約3倍あります。

表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。(表示単位:億円)

資産の部(これまでに作り上げてきた財産)		負債の部(将来世代が負担する金額)					
	普通会計	連結ベース		普通会計	連結ベース		
金融資産	現金	39億円	189億円	流動負債	翌年度償還予定地方債	121億円	240億円
	未収金など	78億円	169億円		未払金	62億円	102億円
	投資	23億円	23億円		その他	22億円	33億円
	基金など	147億円	176億円		地方債	970億円	2087億円
非金融資産	事業用資産 市庁舎、学校、保育園、 市民センターなど	1460億円	1805億円	非流動負債	退職給付引当金など	176億円	204億円
	インフラ資産 道路、公園、上下水道など	3204億円	6134億円		その他	56億円	240億円
	繰延資産	-	5億円	負債合計		1407億円	2905億円
	資産合計	4952億円	8501億円	純資産の部(今までに蓄積してきた正味資産)		3545億円	5595億円
			純資産合計		3545億円	5595億円	
			負債および純資産合計		4952億円	8501億円	

資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

四日市市の現金の流れを示しています。その収支を3つの活動区分に分け、どの活動にいくら現金を使ったのかを表しています。経常的収支は、一般的な行政の活動にかかるもの資金の動きです。公共資産整備収支は固定資産の取得などに関するものです。投資・財務的収支は、借金の返済などです。

期首資金残高 (A)		193億円
当期収支	経常的収支 税金、国庫支出金、 人件費など	297億円
	公共資産整備収支 公共資産整備支出、 国庫補助金など	175億円
	投資・財務的収支 投資および出資金など	126億円
	(B)	4億円
期末残高	(A) + (B)	189億円

行政コスト計算書

四日市市の経常的な活動にともなうコストと使用料や手数料などの収入の差し引きしたものを示すものです。従来の現金主義に基づく官庁会計では把握していなかった減価償却費などの非現金支出についても計上しています。経常費用が小さいほど効率的な行政運営が行われていると言えます。

経常費用 (A)	1644億円
人にかかるコスト 人件費、退職給付引当金繰入など	301億円
物にかかるコスト 物件費(委託料など) 減価償却費 維持補修費など	969億円
移転支的コスト 社会保障給付など	303億円
その他のコスト 借入金金利など	71億円
経常収益 (B)	596億円
使用料など	596億円
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)	1048億円

純資産変動計算書

四日市市の純資産(資産から負債を差し引いたもの)が、前年度からどのように変化した場合、その原因はなにかを示すものです。

期首純資産残高	5592億円
当期変動高 純経常行政コスト	1048億円
財源調達 (市税、国庫補助金)	1534億円
その他	483億円
期末残高	5595億円

貸借対照表からみえてくる四日市市の資産と負債のポイント

市民1人が持っている純資産

四日市市普通会計	資産(162万3千円) - 負債(46万1千円) = 純資産 116万2千円
連結ベース	資産(278万7千円) - 負債(95万2千円) = 純資産 183万5千円

庁舎や道路、公園などの資産で、今までの世代で負担が終わっている割合

四日市市普通会計 76.0% 連結ベース 70.5% (率が高いほどよい)

社会資本に対する、現在までの世代の負担割合 [= 純資産 / (事業用資産 + インフラ資産)] を「社会資本形成の世代間比率」といいます。つまり庁舎や道路、公園などの財産を今までの世代がどれだけ負担してきたのかがわかるものです。

少子高齢社会を見すえ、将来への負担を適正に保ち、負担を先送りしないよう、健全な財政運営に努めます。

純資産比率

四日市市普通会計 71.6% 連結ベース 65.8%

純資産比率とは、総資産に占める純資産(今までに蓄積してきた資産、企業では内部留保)の割合です。その比率が高いほど財務の安定性が高いと言われています。

民間企業の純資産比率に比べかなり高い率になりますが、地方公共団体の特性(道路などの資産が大きい)によるものと考えられます。